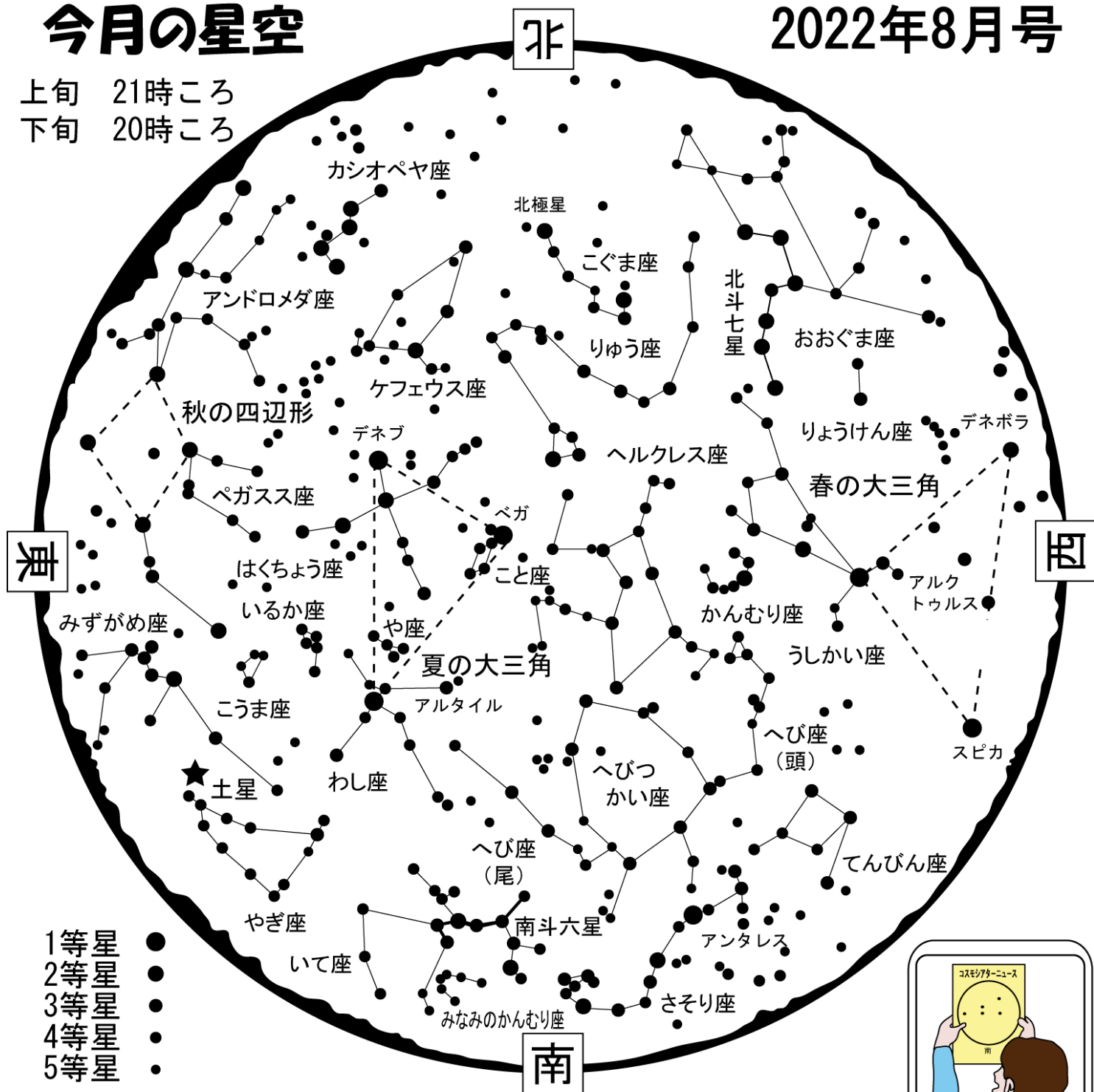


コスモシアターニュース

今月の星空

2022年8月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



- 1等星 ●●
- 2等星 ●●●
- 3等星 ●●●●
- 4等星 ●●●●●
- 5等星 ●●●●●●

水星：下旬の夕方、西のたいへん低い空に見えます。明るさは0等星です。
 金星：明け方、東の低い空に見えます。明るさは-4等星です。26日の朝、月と並んで輝きます。
 火星：真夜中すぎ以降、東の空に見えます。明るさは0等星です。20日の未明、月と並んで輝きます。
 木星：夜遅く、東の空に見えます。明るさは-3等星です。15日の深夜、月と並んで輝きます。
 土星：日の入りすぎ、南東の空に昇り、ほぼ一晩中見えます。明るさは0.5等星です。

今月の月の満ち欠け

上弦：5日(金) 満月：12日(金) 下弦：19日(金) 新月：27日(土)



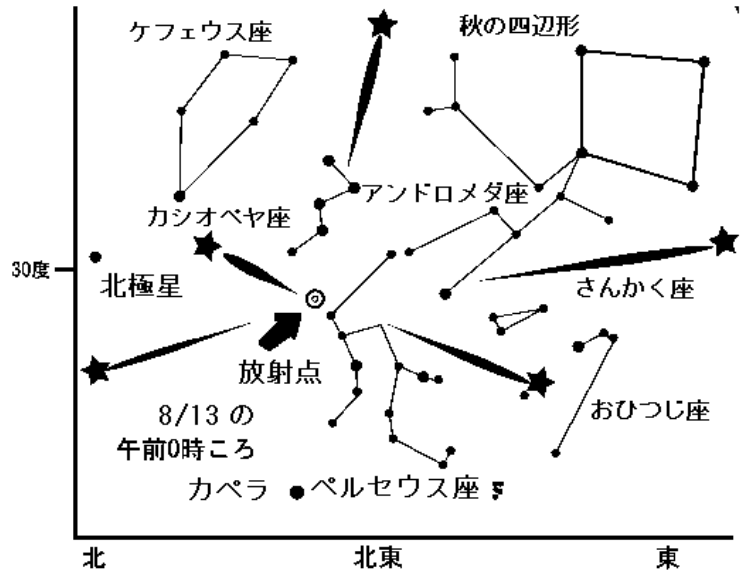
自分の向いている方向を下にして、見てください

13日(土)、明け方、ペルセウス座流星群が極大

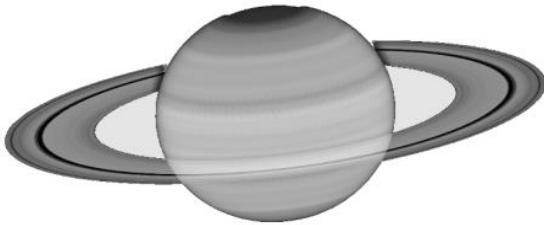
今年のペルセウス座流星群は、12日(金)の深夜から13日(土)の未明に極大(いちばん多くなる時)となり、右の図のように流れます。ただし、ペルセウス座に流れるというわけではなく、ペルセウス座の方向から全天に向けて流れるように見えるだけです。

今年は、一晩中ほぼ満月の月が輝き、条件は良くありません。ただ、明るい流星が多いので、松山市内でも流星を見ることができます。

流星が多くなるのは、ペルセウス座が空高く昇る、12日の21時以降です。見ごろは、13日の午前0時ころから午前4時ころになります。このころは、松山市内では、1時間に5個程度、空の暗い郊外の場合、1時間あたり10個以上見えるようになります。なお、前日の12日の深夜と翌日の13日(土)の深夜も、ある程度の流星を見ることができます。



15日(月)、土星が衝



土星は、地球からリングが見える惑星として知られています。この土星が、15日(月)に衝(しょう)となり、観測の好機を迎えます。衝は、地球より外側を回る惑星が、太陽と反対側に来る時を言います。この時は、日の入りころ昇り、一晩中夜空に輝きます。そして、地球から最も近くなり、観測しやすくなるのです。

土星は肉眼で普通の星にしか見えませんが、天体望遠鏡を使うと、リングが見えてきます。左の図は、天体望遠鏡で見た衝のころの土星の姿です。コスモシアターの8月20日のから年末ころまでの観望会で、天

体望遠鏡で実際に土星リングを見ることができます。興味のある方はぜひご参加ください。

15日(月)、深夜の東の空で、月と木星が並んで輝く

15日(月)の22時前ころ、ほぼ少し欠けた月が東の空に昇ってきます。同じころ、この月の少し先に昇ってくる明るい星が木星です。木星は大変明るいので、月の輝きにも負けず、大変目につくでしょう。そして、時間が進むと、南の空にうつり、さらに見やすくなります。肉眼でよく見えますので、ぜひご覧ください。

26日(金)、明け方、東北東の空で、月と金星が並んで輝く

26日(金)の月の出は、午前4時半ころになり、三日月のように細い月となります。この月のすぐ右側に、昇ってくるのが金星です。金星の明るさは、-4等星で、一番明るい星ですすぐに見つかる星です。ただし、高さが低く、建物に隠れて見えないことがあります。東から東北東の見晴らしのいいところをご覧ください。

天の川を見よう

8月は天の川が見やすい時期です。天の川は、雲のようにぼんやりし、街の明かりがあると見えなくなってしまいます。また、月が輝いている時も見えません。今月は、27日が新月ですので、下旬が見やすくなります。見やすい時間は、21時以降で、深夜まで続きます。人間の目は暗い所に行くと、すぐには暗闇に慣れません。ですから、明るい部屋の中から急に外に出ても、天の川が見えないのです。最低でも5分くらいは、夜空を眺めて下さい。

右の図は、8月下旬の20時ころの様子です。雲のようにぼんやりとしたものが天の川です。実際の天の川は、南の空にある部分が一番明るく見えます。ちょうどさそり座のしっぽ方向です。そして、天の川をさかのぼって頭上を見ると、夏の大三角があります。

